

報道機関 各位

熊本大学

ギリシア古代劇場には
移動式の木造舞台が存在したことが明らかに

(概要説明)

熊本大学大学院先導機構（地中海建築研究室）の吉武隆一准教授は、ヘレニズム期（紀元前323年－紀元前30年頃）に建造されたギリシアの古代都市メッセネの劇場に、移動式の木造舞台が存在した可能性が高いことを明らかにしました。本研究の成果は、ドイツ考古学研究所が発行する国際学術雑誌Archäologische Anzeigerの2016/2号（平成29年5月発行）に掲載されました。

<https://www.dainst.org/-/archaologischer-anzeiger>

現代の劇場建築の祖型は、古代ギリシア・ローマの劇場にまで遡ります。古代ギリシア時代の劇場（紀元前550年－紀元前220年頃）は、円形のオルケストラ、舞台、すり鉢状の客席で構成される素朴で開放的なものでしたが、後のローマ時代（紀元前31年－）には、舞台が高くなり大理石の列柱で装飾され、さらに客席と一体化して壮麗で閉鎖的な劇場に変化しました。この劇場建物の発展には、ヘレニズム末期における舞台建物の変化が関係していると考えられていましたが、その詳細はこれまで不明でした。

こうした中、2007年までに発掘されたギリシア古代都市メッセネの劇場において、舞台脇から大きな舞台収納室と三本の石列が新たに見つかり、熊本大学地中海建築研究室のグループが現地調査を行ってきました。同様の遺構は、他にもメガロポリス、スパルタの二例がギリシア国内の近接する位置に存在することが知られていますが、収納室と石列の具体的な機能については研究者の間でも見解が割れていました。本研究では、一世紀におよぶ研究史を踏まえつつ、関連する三つの遺構を相互に比較分析し、メガロポリスの劇場では木製の背景画パネルが、スパルタとメッセネの劇場では車輪付き木造舞台が、それぞれ存在した可能性が高いことを明らかにしました。これによって、今後ギリシア時代からローマ時代にかけての劇場建物の発展過程が明らかになることが期待されます。

熊本大学地中海建築研究室では、半世紀以上に亘り古代ギリシア・ローマ建築の調査研究を行っています。今回論文が掲載されたArchäologische Anzeiger誌は、この分野の世界的権威であるドイツ考古学研究所ベルリン本部が1889年から発行する専門誌で、日本人研究者の論文が掲載されるのは1981年以来二人目の快挙です。

本研究は、文部科学省・科学研究費補助金、前田記念工学振興財団研究助成等の支援により実施されたものです。

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院先導機構

(併任)熊本大学工学部建築学科地中海建築研究室

担当：吉武 隆一（よしたけ りゅういち）准教授

電話：096-342-3931

e-mail：yoshitak@kumamoto-u.ac.jp

（説明）

熊本大学地中海建築研究室は、半世紀以上に亘って古代ギリシア・ローマ建築の調査と研究を行ってきた、国内ではほとんど唯一のユニークな研究室です。2007年からはギリシア古代都市メッセネ（図1）*¹で、直径100mを超える古代劇場の調査を行ってきました。舞台建物の脇にあるパロドス*²と呼ばれる通路では、改造された大きな部屋が出土し、その内部から長い溝がある幅約45cmの石列が三本発見されました（図2,3）。メッセネ遺跡に隣接するメガロポリス*³の劇場とスパルタ*⁴の劇場でも、ほぼ同様の遺構があることが一世紀も前の発掘ですでに知られています。研究者の間で石列の機能について長年議論されてきましたが結論は出ていませんでした。

本研究では、過去の研究を慎重に精査したうえで、三つの遺構を相互に比較し、それぞれに妥当と考えられる機能を新たに推定しました。その結果、最も古いメガロポリスの劇場に残る石列は木製の背景画パネルを設置するもので、舞台収納室はその保管庫であった可能性が高いことが明らかになりました。残るスパルタとメッセネの劇場では、石列が互いに極めて類似しており、相互補完的に考えれば、現存する三本の石列以外にもう一本石列が存在した可能性が明らかになりました。こうして、スパルタとメッセネの劇場では、前方のプロスケニオン*⁵と後方のスケーネ*⁶に、それぞれ車輪付き木造舞台（図4）が存在し、石列を使って木造舞台を収納室から出し入れさせた可能性が極めて高いと考えられます。これまではプロスケニオンとスケーネは石造りで固定されているか、もしくは木造で移動式だとしても3列の石列に沿って移動されたという説が考えられてきました。

ギリシア演劇とローマ演劇では、いずれも回転する舞台装置が存在したことが古代文献で明らかになっています。このようにメッセネの劇場で今回新たに発見された石列と収納室は、ヘレニズム期の劇場に移動式の木造舞台が存在した可能性が極めて高いことを示す重要な遺構であることが明らかになりました。今後の研究によってメッセネのような車輪付き木造舞台が登場した背景や、後の舞台建物へ与えた影響が明らかになることが期待されます。

（用語説明）

*1 メッセネ（Messene）：

ギリシア・ペロポネソス半島南西部にあるヘレニズム期の都市遺跡

*2 パロドス（parodos）：

古代ギリシア劇場の舞台建物と客席の間にある通路。合唱隊や役者がここを移動してオルケストラに登場したと考えられる。

*3 メガロポリス（Megalopolis）：

ギリシア・ペロポネソス半島中部にある都市遺跡

* 4 スパルタ (Sparta) :

ギリシア・ペロポネソス半島中部にある都市遺跡

* 5 プロスケニオン (proskenion) :

ギリシア劇場の舞台建物の前方部分、一階建て。背景を描いたパネルを飾るなど舞台背景として使用した他、ステージの部分を舞台として役者が演技したと考えられる。

* 6 スケーネ (skene) :

ギリシア劇場の舞台建物の後方部分、二階建て。楽屋や舞台背景としての機能を持つ。

(発表論文)

雑誌名 : Archäologische Anzeiger, 2016/2 (冊子版のみ : 平成 29 年 5 月発行)

論文タイトル : The Movable Stage in Hellenistic Greek Theatres. New Documentation from Messene and Comparisons with Sparta and Megalopolis

著者 : R. Yoshitake

ISBN: 978 3 8030 2357 5

URL : <https://www.dainst.org/-/archaologischer-anzeiger> (目次のみ)



図 1 メッセネ、メガロポリス、スパルタの遺跡の位置

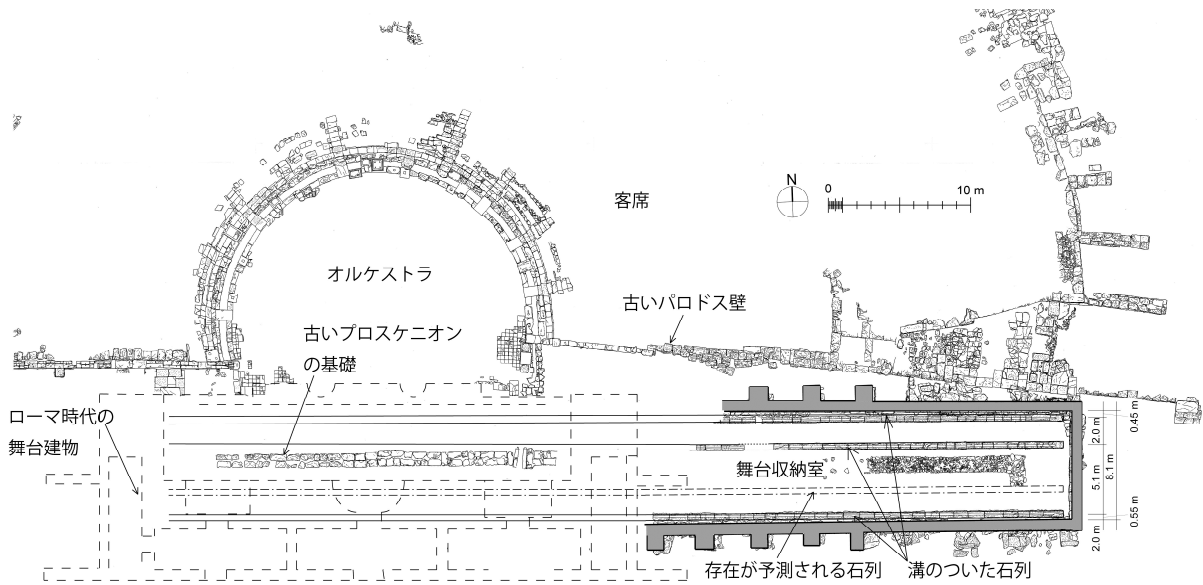


図2 ギリシア古代都市メッセネの劇場平面図 (R. Yoshitake, „The Movable Stage in Hellenistic Greek Theatres. New Documentation form Messene and Comparisons with Sparta and Megalopolis,” *AA*, 2016/2, p. 120, fig. 1)

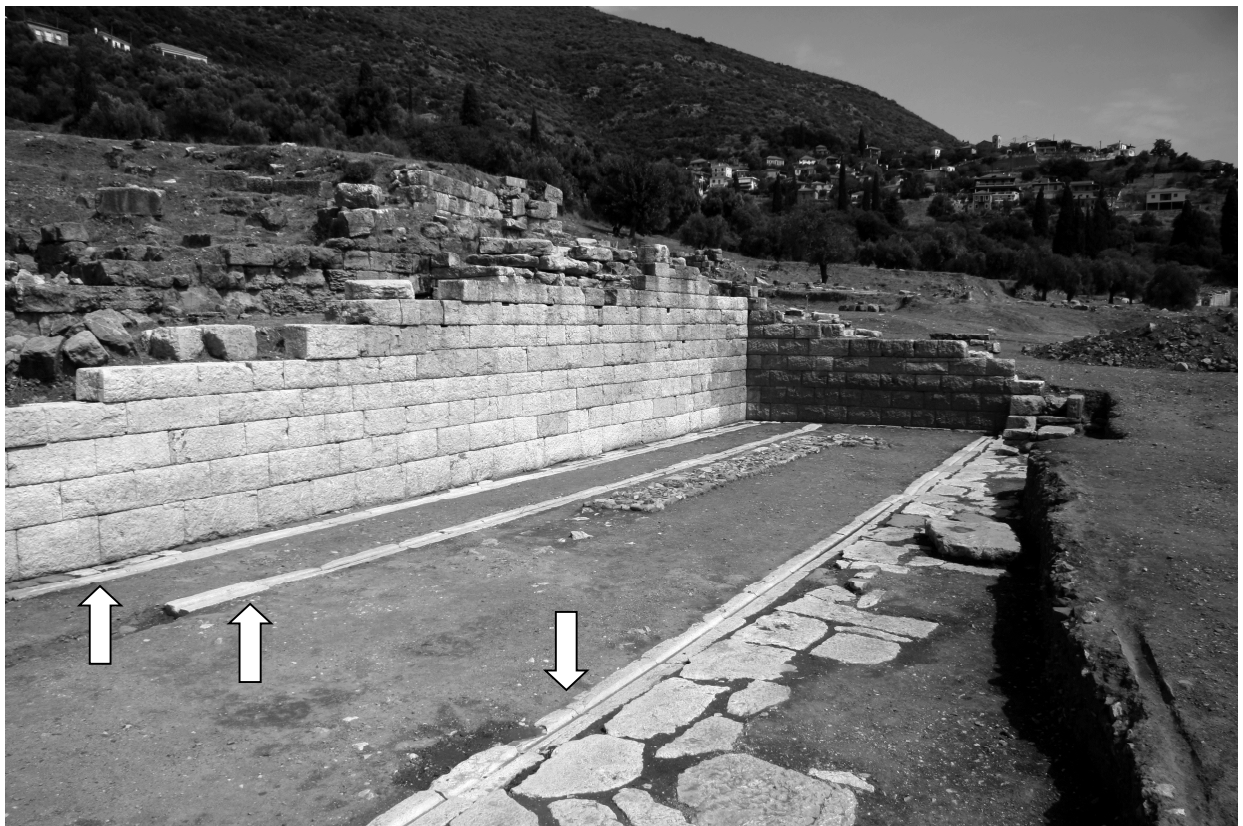


図3 ギリシア古代都市メッセネの劇場、舞台収納室と石列 (矢印) (R. Yoshitake, „The Movable Stage in Hellenistic Greek Theatres. New Documentation form Messene and Comparisons with Sparta and Megalopolis,” *AA*, 2016/2, p. 121, fig. 2)

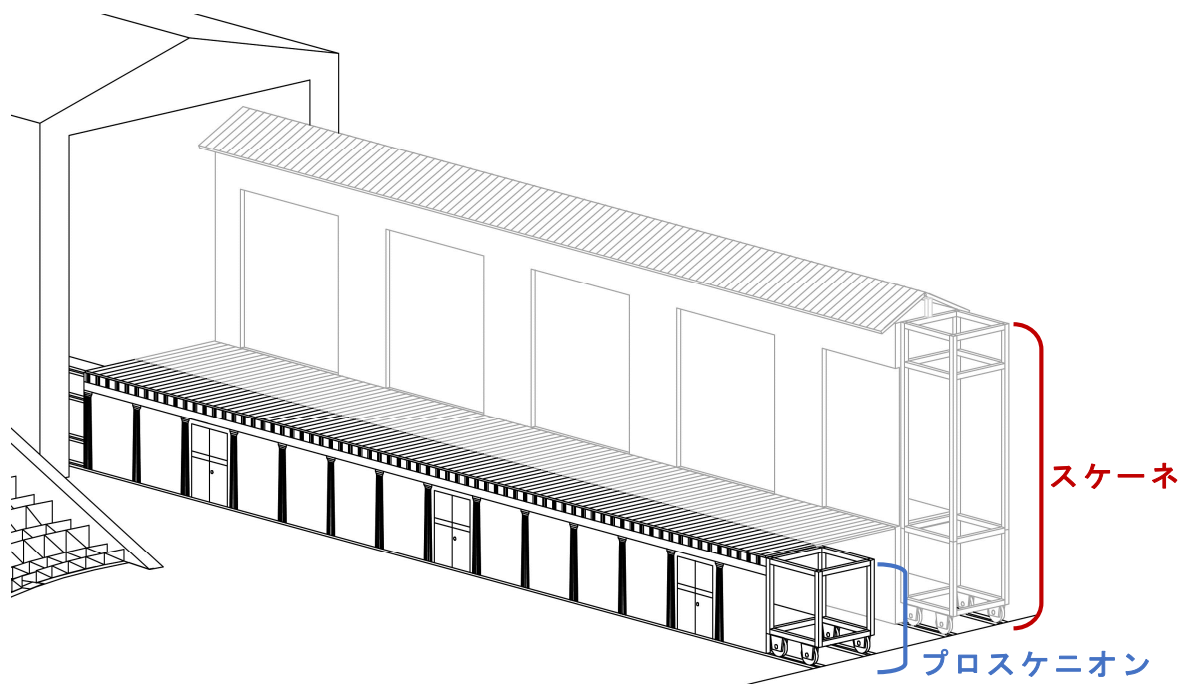


図4 ギリシア古代都市メッセネの劇場、車輪付き木造舞台の推定図 (R. Yoshitake, „The Movable Stage in Hellenistic Greek Theatres. New Documentation form Messene and Comparisons with Sparta and Megalopolis,” *AA*, 2016/2, p. 123, fig. 6)